

	WHO	UNSCEAR
目的	事故後1年間の住民の被ばくによる健康リスクを見積もる（保守的評価）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでに得た情報を集約し、評価する</li> <li>• 科学的な知見を提供する（現実的評価）</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 被ばく線量推計</li> <li>• 健康リスク評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 原発事故の時系列的展開</li> <li>• 放射性物質の放出と拡散状況</li> <li>• 公衆の被ばく線量</li> <li>• 作業員の被ばく線量</li> <li>• 健康影響</li> <li>• ヒト以外の生物の被ばく線量とリスク評価</li> </ul>
評価時期	事故発生直後 （2011年9月までのデータ） 事故直後は精度の高くない情報も多い。	事故からある程度の時間が経過（2012年9月までのデータ） 一部の更に新しい情報は特に適切であった場合は考慮に入れた。
公表時期	線量評価：2012年5月 健康リスク評価：2013年2月	2014年4月
結論	今回の事故による放射線によって、疾患の罹患の増加が確認される可能性は小さく、福島県のいくつかの地域以外や、日本近隣諸国ではリスク増加は無視できる水準である。	事故により日本人が生涯に受ける被ばく線量は少なく、その結果として今後日本人について放射線による健康影響が確認される可能性は小さい。